

画像符号化・映像メディア処理論文特集の発行にあたって



画像符号化・映像メディア処理論文特集編集委員会

委員長 藤井 俊彰

本特集は、本会画像工学研究専門委員会が毎年主催する画像符号化シンポジウム（PCSJ）、及び映像メディア処理シンポジウム（IMPS）と連動して企画されている。PCSJ/IMPSは、画像符号化・映像メディア処理分野の国内の専門家が一堂に会し、3日間泊まり込みで研究発表と意見交換を行う場として定着しており、毎回200名を超える参加者により熱い議論が行われている。「画像符号化・映像メディア処理」と題した特集は、そのPCSJ/IMPSで発表された研究成果を発展させたもの、並びに当該分野に関連した研究の特集として、2007年度の7月号にレター特集として発足し、2014年の8回目からはフルペーパーも含めた特集として定着してきた。2017年より英文誌（IEICE Trans. Inf. & Syst., D）との連動企画となり、和文・英文を問わず当該分野の優れた研究を発表できる場としての認知度も高まってきている。

今回はレター投稿6編、フルペーパー6編の投稿があり、厳正な査読の結果、レター1編、フルペーパー3編の論文を採録することとなった。画像符号化の分野においては、例年通りH.265/HEVC関連の投稿が一定数あったが、今回は固定小数点アフィン動き補償/推定に関する論文が採録となっている。また、動画像のDFT係数のための信号モデルとそのパラメータ推

定についての数理的な解析を詳細に行った論文もあるので、ぜひご一読頂きたい。他方の映像メディア処理の分野においては、全地球画像に関するものとRGB-D映像の深度画像の高解像度化に関する論文が採録となっている。いずれも、近年のVRやデプスセンサの広がりを反映したものであり、映像メディア処理はますます重要な分野になりつつあることが見て取れる。

最後に、本特集を編集するにあたり、厳しいスケジュールの中で丁寧な査読をして下さった査読委員の方々、及び編集作業に携わって下さった編集委員の方々に厚くお礼申し上げる。特に、英文誌連動企画において大変複雑な編集作業こなして頂いた編集幹事の方々、そして本企画をサポート頂いた和文論文誌D編集委員会の関係者の方々に感謝の意を表したい。

藤井 俊彰（正員：シニア会員） 名古屋大学大学院工学研究科教授。1990年東京大学工学部電子工学科卒。1995年同大大学院博士課程修了。博士（工学）。同年、名古屋大学大学院工学研究科電子情報学専攻助手。2003年、同助教授。2008年～2010年東京工業大学大学院理工学研究科准教授。2012年より現職。2011年～2013年映像メディア処理シンポジウム実行委員長。2013年～2014年電子情報通信学会画像工学研究専門委員会委員長。主に3次元映像通信、3次元映像システム・映像処理に関する研究に従事。映像情報メディア学会、情報処理学会、IEEE各会員。

画像符号化・映像メディア処理論文特集編集委員会

委員長	藤井 俊彰		
幹事	河村 圭・久保田 彰・高橋 桂太・松尾 康孝		
委員	安藤 慎吾・稲積 泰宏・小野 峻佑・金井 謙治		
	亀田 裕介・京地 清介・黒木 祥光・篠田 一馬		
	中條 健・長谷川 まどか・浜本 隆之・坂東 幸浩		
	福嶋 慶繁・峯澤 彰		